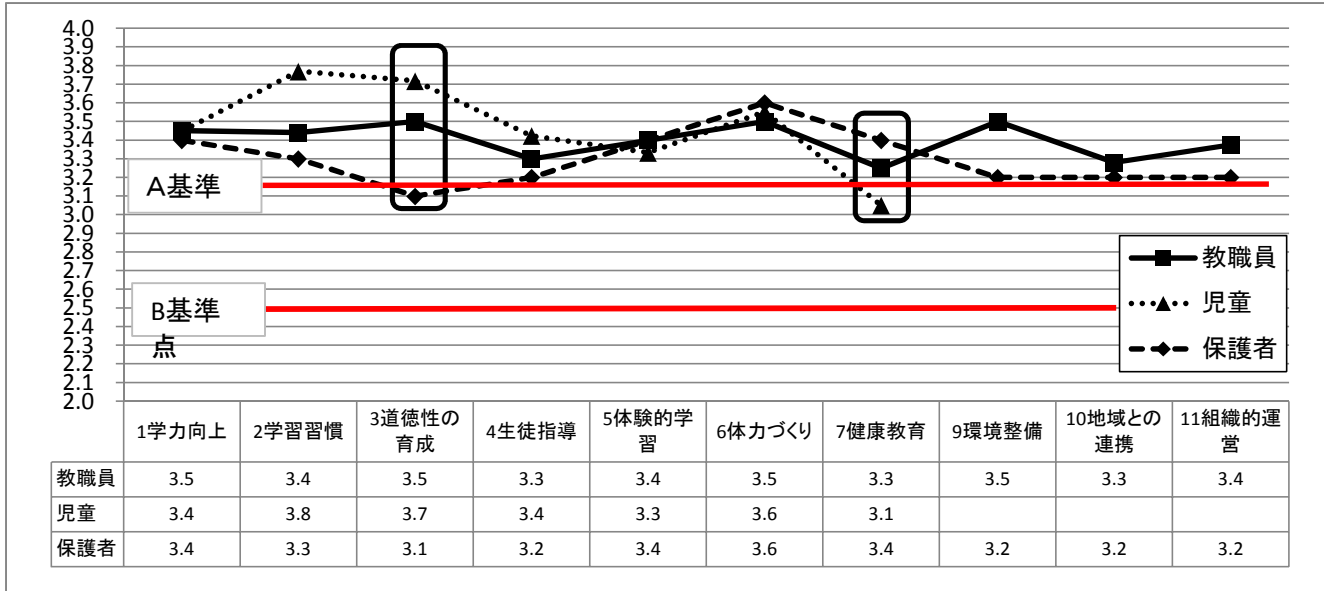


平成28年度第2回学校評価結果

回収率：保護者94%（前回97%）（H27:66%）児童・教職員100%※教職員の数値は各設問の平均値とする。（ ）内の数値は前回のもの。

目標項目	アンケート項目 *は保護者アンケートの質問項目 ・は他の具体的取組	教職員	児童	保護者	自己評価	学校関係者		各項目に関わる状況・改善点など	
						自己評価の適切さ	改善策の適切さ		
確かな学力の育成	①基礎基本の定着と活用力を図る授業実践		3.5 (3.3)	3.4 (3.5)	3.4 (3.6)	A	A	A	【学校より】 ○英語科・外国語活動については高い評価を得ている。日常の評価のみならず、学力検査やチャレンジテストの結果を分析し、本校児童の実態と課題を明確にしている。TTや学習支援員など、個に応じた指導体制を工夫している。 ●学ぶ意欲の向上をはかる授業づくりをどのように推進していくか、校内研修と連動させて具体的に実践を進めていく。
	②学習意欲の向上と学習習慣の確立		3.4 (3.3)	3.8 (3.7)	3.3 (3.6)	A	A	A	【学校より】 ○見通しや振り返りを重視し、わかりやすい授業を展開している。ふうタイムだけでなく、町内の素材を教材化し、体験的な学習を計画的に進めることができています。 ●情報機器を効果的に使い、どの子にもわかりやすい授業展開の工夫をしていく。
豊かな心の育成	③道徳性の育成		3.5 (3.4)	3.7 (3.8)	3.1 (3.2)	B	A	A	【学校より】 ○児童理解のために、各種ツールやアンケート、教育相談などを計画的に行っている。校内研修で、道徳の授業改善に取り組み、全学年で授業を公開して改善を図っている。 ●読書に対する取り組みを強化する。学習と並行して読書をするよう促したり、朝読書のあり方を改善して、読書に親しむ時間を今以上に確保する。
	④生徒指導の充実		3.3 (3.2)	3.4 (3.5)	3.2 (3.4)	A	A	A	【学校より】 ○全校で統一した学習規律を提示して、取り組んでいる。相手の目を見て挨拶できる児童が多い。 ●必要な情報が分かりやすく明示されていたり、保護者が必要な日程の情報を早めに出したりする。
	⑤体験的な活動の充実		3.4 (3.4)	3.3 (3.5)	3.4 (3.5)	A	A	A	【学校より】 ●体験的活動を提供していただいた方に、学びの足跡がわかるような作品を届けるなど感謝の気持ちを表現させていく。
健やかな体の育成	⑥体力・運動能力の向上		3.3 (3.3)	3.6 (3.6)	3.6 (3.7)	A	A	A	【学校より】 ○全学年で体力テストを行った。集計を迅速に行い、本校児童の課題を明確にした。 ●昨年から課題である柔軟性に改善がみられず、体育での取り組みが不十分と考えられる。今回見えてきた課題同様、継続した取組を行う必要がある。
	⑦健康教育の推進		3.5 (3.2)	3.1 (3.1)	3.4 (3.6)	B	A	A	【学校より】 ○生活リズム調査などで、意識の改善をはかることができています。家庭学習に取り組んだ時間の記入は定着してきている。 ●デジタルメディアに触れる時間を決めるなど、家庭での取組を促し、実態の変化を把握するよう努める。
	⑧安全教育の充実		3.3 (3.5)	3.6 (3.5)	3.3 (3.6)	A	A	A	【学校より】 ●ネットの適切な使用などの指導を、中学年から指導を開始する。
信頼される学校づくり	⑨学ぶ組織と指導力の向上		3.5 (3.3)		3.2 (3.4)	A	A	A	【学校より】 ○国語と道徳の授業を全学級で公開し、授業の改善に全教職員で取り組んでいる。各種研修会の参加報告を研修日で行い、密度の濃い還元をはかっている。 ●教材教具の工夫をし、子供たちが学ぶ実感を感じられるような授業づくりを一層取り組む。
	⑩学校・保護者・地域との連携		3.3 (3.3)		3.2 (3.3)	A	A	A	【学校より】 ○コミュニティスクールや、保護者会などの情報共有が進んでいる。 ●生活リズムと同様にゲームなどのデジタルメディアに接する時間が長く、家庭の協力と同時に、子供たちが自分で時間を管理できるようになる手立てを考え、学校でも指導していく。

くり	⑪組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> * 学校サポーターの参画による学習活動をするなど、コミュニティスクールを活用した学校運営に努めているか。 ・月ごとの学校運営計画 ・分掌業務の組織的推進 ・諸表簿や事務文書の整理、定期的点検 ・データ管理、個人情報の保護 ・校務支援システムの有効活用 	3.4 (3.5)	3.2 (3.4)	A	A	A	【学校より】 ○学校運営委員会を定例化し、分掌組織で業務を推進することができている。学校運営委員会や分掌会議を行い、組織として業務にあたる体制ができてきている。



学校関係者評価委員から	学校から
不登校の児童はいるか。	不登校の児童は現在はいない。困り感を抱えている児童については、支援員も含め、きめ細かく対応をしている。
職員の勤務状況（超過勤務）はどうか。	以前から比べて、かなり改善してきている。
職員の年度内配置換えについて、その後の状況はどうか。	順調にきている
生活リズムは子供だけでなく、家庭にもなんらかの形でサポートする必要があるのではないか。	学校と家庭の連携だけでなく、保護者同士の連携も充実させていく必要がある。